

国語教材史からみた島崎藤村作品の研究

橋 本 暢 夫

1 採録作品を時期別に整理すると、次のようになっている。
明治期（明治35年～45年まで）

A 詩教材

ア	問答の歌	△梅は酸くして梅の樹の▽	落梅集	22
イ	春の曲	△うてや鼓の春の音▽	若菜集	16
ウ	暁の誕生	△東の空のはのぼのと▽	夏草	7
エ	鳥なき里	△鳥なき里の蝠蝙蝠▽	落梅集	6
オ	晩春の別離	△時は暮れゆく春よりぞ▽	夏草	5
カ	舟路	△海にして響く鱸の声▽	落梅集	4
キ	常盤樹	△あら雄々しきかな▽	落梅集	4
ク	椰子の実	△名も知らぬ遠き島より▽	落梅集	3
ケ	春の歌	△春は来ぬ▽	若菜集	3
コ	労働雑詠	△朝はふたたびここにあり▽	落梅集	2
サ	二つの泉	△自然の母の乳のしづく▽	夏草	2
シ	春やいづこに	△霞のかげに萌えいでし▽	一葉舟	2

B スケッチ・紀行文教材

ア	利根川だより六八ことしの春は雨多く▽	落梅集	4
---	--------------------	-----	---

近代国語教材史から 島崎藤村作品をみたばあい、明治三十五年の「中学帝国読本 巻九」（武島又次郎編 全十冊 明治35・12・18 金港堂発行）に「二つの声——朝入たれか聞くらん……」（藤村詩集）が採録されて以後、現在まで、約八十年にわたって、その作品は、質量ともに大きな位置を占めてきている。

現在の国語科教育の立場からみても、島崎藤村の作品は、詩・小説の鑑賞指導、スケッチ・紀行、感想・評論文の読解指導、また、読書生活指導の面において、多くの課題をこなしている。

今回は、島崎藤村の作品が、旧制中等学校（中学校・女学校）以降、現行の高等学校の教材として、どのように採りあげられてきたかを調査報告したい。

（調査は、国立教育研究所付属教育図書館蔵の中学校・女学校、高等学校教科書を主とし、旧制中学校・女学校読本については、東書文庫、学習院大学図書館、国立国会図書館で補充した。）

2 大正期

A 詩教材

ア	晩春の別離	△時は暮れゆく春よりぞ▽	夏 草	34	〔出典〕	〔頻度数〕
イ	暁の誕生	△東の空のほのぼのと▽	夏 草	29		
ウ	椰子の実	△名も知らぬ▽	落梅集	23		
エ	舟 路	△海にして響く鱸の声▽	落梅集	23		
オ	春の 曲	△うてや鼓の春の音▽	若菜集	20		
カ	問答の歌	△梅は酸くして梅の樹の▽	落梅集	12		
キ	千曲川旅情の歌	△小諸なる古城のほとり▽	落梅集	9		
ク	春の 歌	△春は来ぬ▽	若菜集	9		
ケ	労働雑詠	△朝はふたたび▽	落梅集	9		
コ	響りんりん	△響りんりん▽	落梅集	7		
サ	懐 古	△天の河原に八百万▽	若菜集	7		
シ	鳥 なき里	△鳥 なき里の 蝠 蝙 や▽	落梅集	6		
ス	二つの泉	△自然の母の乳のしづく▽	夏 草	6		
セ	春やいづこに	△霞のかげに萌えいでし▽	一葉集	5		
ソ	おえふ	△処女ぞ経ぬるおほかたの▽	若菜集	4		
タ	常 盤 樹	△あら雄々しきかな▽	落梅集	4		

B スケッチ・紀行文教材

ア	千曲川のスケッチ	〔落葉〕など	25
イ	フランスだより上	〔巴里の五月〕など	20
ウ	フランスだより下	〔春を待ちつつ〕など	7

エ	海へ	〔海へ〕〔故国に帰って〕など	16
オ	利根川だより六	△ことしの春は雨多く▽	4

C 感想・評論文教材

ア	飯倉だより	〔初学者のために〕など	28
イ	市井にありて	〔桃〕△三月の桃の節句は▽など	3
ウ	春を待ちつつ	〔前世紀を探索する心〕など	5
エ	菖蒲の節句	△国民の記念日でもなく▽	1
オ	新体詩人を評す		1
カ	送別の詞	△友の出立は▽	1

D 童話教材

ア	をさなものがたり	〔書籍〕など	17
イ	幼きものに	〔日本の言葉〕など	10

E 小説教材

ア	嵐	〔三人〕△お前が私達と▽	2
イ	微風	〔幼き日〕	1

3 昭和(戦前)期

〔数字の上段は、昭和十年までの、下段は、昭和十一〜二十年までの頻度数を示す。〕

A 詩教材

ア	千曲川旅情の歌	△小諸なる古城のほとり▽	落梅集	37
イ	晩春の別離	△時は暮れゆく春よりぞ▽	夏 草	29
ウ	椰子の実	△名も知らぬ遠き島より▽	落梅集	16

エ	常盤樹	△あら雄々しきかな▽	落梅集	8	1
オ	舟路	△海にして響く鱸の声▽	落梅集	7	4
カ	おえふ	△処女ぞ経ぬる▽	若菜集	7	10
キ	響りんりん	△響りんりん▽	落梅集	6	6
ク	春の曲	△うてや鼓の春の曲▽	若菜集	5	7
ケ	春の歌	△春は来ぬ▽	若菜集	5	5
コ	労働雑詠	△朝はふたたび▽	落梅集	5	3
サ	秋風の歌	△しづかにきたる秋風の▽	若菜集	4	3
シ	潮音	△わきて流るる▽	若菜集	3	7
ス	懐古	△天の河原に八百万▽	若菜集	1	1
B スケッチ・紀行文教材					
ア	千曲川のスケッチ	〔落葉〕〔收穫〕など		24	31
イ	フランスだより	上 〔再び巴里の旅窓にて〕等		15	5
ウ	フランスだより	下 〔春を待ちつつ〕		2	0
エ	海へ	〔故国に帰って〕〔海へ〕		23	6
オ	エトランゼエ	△マルセイユの▽		2	0
カ	山陰土産	△大乘寺は▽△大社に着いた▽		5	2
キ	利根川だより	△ことしの春は雨多く▽		3	1
C 感想・評論文教材					
ア	飯倉だより	〔初学者のために〕など		48	51
イ	市井にありて	〔桃〕〔言葉の術〕など		35	85
ウ	春を待ちつつ	〔前世紀を探求する心〕など		22	47
エ	浅草だより	〔涙と汗〕〔写生〕など		6	1

オ	菖蒲の節句	△国民の記念日でもなく▽			
カ	桃の平	〔人工の製〕〔秋草〕など		0	19
D 童話教材					
ア	をさなものがたり	〔書籍〕〔太陽の出る前〕など		30	28
イ	幼きものに	〔日本の言葉〕など		6	5
ウ	ふるさと	〔ふるさとの言葉〕など		4	6
E 小説教材					
ア	嵐	〔嵐〕〔子に送る手紙〕など		21	9
イ	夜明け前	〔△円山応挙が▽△水戸浪士の▽等〕		2	10
ウ	微風	〔△早く夕飯のすんだ▽〕		1	1
エ	緑葉集	〔朝飯〕〔家畜〕		2	0
F 消息文教材					
ア	秋涼			3	2
4	昭和21年～25年	(文部省著作教科書)			
A 詩教材					
ア	舟路	△海にして響く鱸の声▽ (昭21年本)			②年
イ	千曲川旅情の歌	△小諸なる▽ (昭21年本)			③年
B スケッチ・紀行文教材					
ア	千曲川のスケッチ	△落葉▽ (昭22年本)			①年
		△24・25年本も			

C 感想・評論文教材

ア 芭蕉の節句 △国民の記念日でもなく▽ (昭21年本 ①年)

D 童話教材

ア をさなものがたり△書籍▽ (昭22年本 ①年)

イ ふるさと△おもちゃは野にも畑にも▽ (昭22年本 ①年)

〔ア・イとも 昭24・昭25年本にも〕

5 昭和24年～27年

A 詩教材

ア 晩春の別離 [單元名] [出版社・学年]

イ 千曲川旅情の歌 (味詠・朗詠) (單元六) 秀英②中研② 二葉②

C 感想・評論文教材

ア 熱海土産 (読書と創作) 秀英①

イ 春を待ちつつ△芭蕉を読む▽ (古典) 教図①

E 小説教材

ア 嵐 △子供らは▽ (出発) 成城①

△分配▽ (生活の設計) 新泉②

6 昭和27年～30年 (昭和26年度 学習指導要領国語科編 以後)

A 詩教材

ア 潮音△わきて流るゝ▽ [單元名] [出版社・学年]

イ 千曲川旅情の歌 (小) (小諸なる古城のほとり) 実教②

ウ 春を待ちつつ△芭蕉を読む▽ (近世の文学) 教図③

エ 千曲川旅情の歌鑑賞 (近代詩) 昇龍②

オ フランスの旅に▽ (世界の古典) 光村③

C 感想・評論文教材

ア 「藤村詩集」序 (春は来ぬ) (新しい道) 大書①三省①

イ 熱海土産 △潮風▽ (近代の文学) 秀英①

ウ 春を待ちつつ△芭蕉を読む▽ (近世の文学) 教図③

エ フランスの旅に▽ (世界の古典) 光村③

E 小説教材

ア 嵐 △子供らは▽ (出発) 実教①

イ 家 △大森林に続いた…▽ (近代文学) 東書③

ウ 夜明け前 △木曾路は…▽ (長編小説) 教図研①中教研②

エ 木曾路に▽ (小説) 昇龍②

オ 黒船…▽ (長編小説) 実教③

カ 円山忠挙が…▽ (物語と歴史) 光村①

F 消息文教材

ア 「翌朝私たちは」

(手紙)

光村②

7 昭和31年～37年 (昭和31年 学習指導要領 一部改定 以後)

A 詩教材

〔單元名〕

〔出版社・学年〕

ア 明星 △浮べる雲と身をなして▽ (明星)

明治①

イ 浦島 △浦島の子とぞいふなる▽ (近代詩)

東書①

ウ 常盤樹 (詩)

(ときわき) 中教② 清水③

エ 潮音 (近代詩) (近代の抒情) 東書① 日書①

オ 千曲川旅情の歌(一) (近代文学の成立) (美しきあけぼの) (詩) 大書① 中教①

ア 千曲川旅情の歌(一) (近代文学の成立) 教出②

イ 〃 (一) (近代の詩) 教図① 角川② 教図②

ウ 〃 (近代詩) 大書② 中研② 明治② (近代詩抄) 昇造②

エ 〃 (近代詩の流れ) 大修① (詩と詩心) 中央①

オ 〃 (自然に親しむ) 好学① (近代詩の鑑賞) 續文①

ア 千曲川旅情の歌について (詩の鑑賞) 秀英①

イ 千曲川旅情の歌の鑑賞 (詩の味わい方) 三省①

C 感想・評論文教材

ア 「藤村詩集」序 (美しきあけぼの) 大書①

イ 飯倉だより△簡素の美▽ (近代文学の成立) 教出② (近代詩抄参考) 教図②

ア 飯倉だより△簡素の美▽ (記録と発表) 三省①

E 小説教材

ア 桜の実の熟する時△秋の日の光は▽ (近代文学の成立) 教出③

△延びやう▽

(青年)

清水②

イ 家△橋本の家の台所では▽

(小説)

中教②

ウ 夜明け前△木曾路は：▽

(長編と短編)

好学③

〃 (長編小説) 中研② (小説)

中教②

〃 △「また黒船ですぞ」▽

(近代小説)

中央②

〃 △京都の方のことも▽

(近代の小説)

角川③

8 昭和38年～40年 (昭和35年 学習指導要領改定 以後)

A 詩教材

〔單元名〕

〔出版社・学年〕

ア 明星 △浮べる雲と▽

(近代詩)

清水①

イ 浦島 △浦島の子とぞ▽

(近代詩)

東書①

ウ 潮音 △わきて流るゝ▽

(近代詩)

東書①

エ 舟路 △海にして響く▽

(VII)

中央③

オ 千曲川旅情の歌 (詩) 実教②

(近代の詩) 書院③ (詩の効用)

大原①

「千曲川旅情のうた」について (吉田精一) (近代の詩) 教図① 尚学①

B スケッチ・紀行文教材

ア 千曲川のスケッチ「小春の丘べ」 (文章の書き方) 大原②

イ 山陰みやげ (日記と紀行) 実教① 中央②

C 感想・評論文教材

ア 飯倉だより△北村透谷の生涯▽ (伝記) 尚学②

△文章の道▽△初学者のために▽ (表現と理解) 教図① 書院①

E 小説教材

ア 嵐

(青年)

大日本③

イ 春

(真実を求めて)

清水①

ウ 夜明け前入序章V

(近代の小説 書院②)

秀英③

〃

(小説一)

好学②

〃 〃 〃

(近代の小説)

角川③

〃 〃 〃

(生きるきびしさ)

三省②

イ 海へ 〓故国に帰りてV

(近代の文章)

筑摩②

C 感想・評論文教材

ア 「藤村詩集」序

(新しき詩歌の時)

角川①

イ 浅草だより〓見ること書くことV(対象認識と伝達)

学図②

ウ 浅草だより〓北村透谷の短き一生V(読書の窓)

学図③

エ 飯倉だより〓文章の道V

(表現と理解)

教図①

F 消息文教材

ア 鶏二へ

(通信) (手紙のいろいろ)

筑摩①

三省①

(手紙の書き方)

大原①

9 昭和48年〓50年(昭和45年 学習指導要領改定 以後)

A 詩教材

ア 初恋 〓まだあげ初めしV

(詩)

東書③

イ 潮音 〓わきて流るゝV

(序章)

教出③

ウ 〃 (詩) [近代詩の成立と展開―阪本越郎]

(詩)

明治③

エ 小諸なる古城のほとり

(詩)

実教②

オ 千曲川旅情のうた(一)・(二)

(詩)

明治③

カ 吾胸の底のここには・白壁・草枕

(詩) [詩をどう読むか―大岡信]

旺文③

B スケッチ・紀行文教材

ア 千曲川のスケッチ〓収穫V

(対象認識と伝達)

学図②

E 小説教材

ア 桜の実の熟する時

(生の発見)

三省②

10 昭和51年〓53年(昭和45年版 実施後の修正版)

A 詩教材

ア 初恋

(詩)

東書③ 尚学③

イ 潮音 (詩) [近代詩の成立と展開―阪本越郎]

(詩)

明治③

ウ 小諸なる古城のほとり

(詩)

実教②

エ 千曲川旅情のうた(一)・(二)

(詩)

明治③

B スケッチ・紀行文教材

ア 千曲川のスケッチ 〓落葉V

(近代の文章)

尚学③

イ 海へ 〓故国に帰りてV

(近代の文章)

筑摩②

C 感想・評論文教材

ア 「藤村詩集」序(近代の文章(時代と表現))

光村① 角川①

E 小説教材

ア 桜の実の熟する時 △薄暗い…▽

(生の発見)

三省①

三

旧制中等学校時代に比して、昭和21年以後は、藤村作品の教材としての採録がきわめて少なくなっている。これは、戦前の教科書が雑糲型である——例えば、大正末年から昭和十年代にかけての教科書(全十巻)のうち、八巻にわたって藤村作品が採られている例が幾種もみられる——のに対して、戦後の教科書が単元的構成をとっているためである。

明治期から現在までの採録の状況を観るとき、教材として長い生命を保っている作品として、「千曲川旅情の歌」、「千曲川のスケッチ」(「落葉」、「収穫」など)、また、「初学者のために」(「飯倉だより」より)、「隅田川の水」(「海へ」の第五章、△故国に帰って▽)などをあげることができる。なかでも、「千曲川旅情の歌」は、大正6年の初採録以来、調査の時期ごとに、欠けることなく採録されていることが明らかとなった。

四

詩教材で、旧制中等学校時代の頻度数が最も多かった「晩春の別離」は、戦後昭和20年代に一度採りあげられただけで、以後、採録

されていないことがわかる。

明治期の詩教材のうち「暁の誕生」、「問答の歌」、「鳥なき里」、「二つの泉」、「春やいづこに」も、大正期まで採られたのち、昭和期には、一度も採録されていない。

対して、「潮音」、「秋風の歌」などは、昭和にはいつて初めて採られるようになった詩であり、「千曲川旅情の歌」、「響りんりん」なども、大正期以後に採録されるようになった作品である。

戦後の詩教材では、「千曲川旅情の歌」が、ずば抜けて多く、△近代詩▽、△近代詩の歩み▽といった単元のほか、△味読・朗読▽、△自然に親しむ▽詩と人生▽等の単元に採られている。

また、「初恋」が、戦後になって、採りあげられてきている。

スケッチ・紀行文教材は、旧制中等学校時代、ほとんど低学年向きの教材として採られていただけに、戦後の頻度数は少ない。しかし、「千曲川のスケッチ」の「落葉」、「収穫」、「小春の丘べ」など、また、「海へ」の「故国に帰って」が、△近代の文章▽、△対象認識と伝達▽、△文章の書き方▽などの単元に採録されている。藤村の文章修行が、近代文体の成立と展開の面から、再確認されて、採録されたものと考えられる。

感想・評論文教材は、大正13年の「教授要目」の改正に伴って、大正の末から採りあげられてきた。

旧制中等学校時代、すでに、ずば抜けて多く採られてきた、「初学者のために」(「飯倉だより」から)が、戦後、△表現と理解▽の

テーマでの単元に採られている。自己の体験を通じて『文章の道』について語りかける点、豊かな教材価値をもつ作品と考えられる。

また、最近の教材として、『観ること書くこと』『浅草だより』から、△対象認識と伝達▽と題する単元に採りあげられている。「物を書くことは、よく物を観ることだ。又よく物を記憶することだ。」と、人によく勧めたと、自ら記している藤村の考えをとらえて教材化されたものと考えられる。

このほか、「藤村詩集」序が、戦後、△新しい道▽、△美しきあけほの▽、△近代の文章▽、△近代文学の成立▽といった単元において、△時代と表現▽の立場から、六社の教科書に採録されていることも注目に価する。

童話教材は、その成立の動機からみても教材性をもっており、大正末年以後、低学年の教材として数多く採られてきた。今回の調査では、戦後の検定本を高等学校教材に限定したため、採録例が上っていない。

小説教材としては、昭和2年以後に、「緑葉集」、「微風」、「嵐」などの一部が、昭和9年以後、「夜明け前」の一部がエピソードふうに採られてきた。

「夜明け前」が、長編小説として、本格的に採りあげられるようになったのは、昭和27年以後のことである。△長編小説▽、△近代の小説▽、△物語と歴史▽等の単元として、また、学習者に、△生きたるきびしさ▽を考えさせる単元として採録されており、あらずし、解説、本文を組み合わせるなど、採録の形式面においても、量的な

面においても、工夫のあとがみられた。しかし、48年以後、採録例は見られなくなっている。

五

私は、藤村作品が教材として採られている特徴を、詩のローマン性と、藤村の、エッセイストとしての面にあると指摘した。(旧制中等学校教材史上の島崎藤村)——「国語教育研究第八号」 昭38・12、広島大学教育学部光葉会

戦後は、恋愛詩の「初恋」が採りあげられるようになり、小説「春」、「桜の実の熟する時」などが、△真実を求めて▽、△生の発見▽等の単元で、——これに、戦前からの「嵐」の△出発▽を加えるとき——△青年期の文学▽として、△生の文学▽として採りあげられるようになってきている。

また、その文章は、「藤村詩集」序の採りあげかたにうかがえるように、その時代を表現するものとして、さらに言えば、近代文体の成立の視点から採録されているといえる。

以上の、今回の調査報告のうえにたって、

① 教材としての観点からの藤村作品の分析と、

② 藤村作品の教材別実践史の研究

にとりくみたい。

(大分大学教育学部助教授)